

学位論文等評価基準

学院	コース等	修士論文 / プロジェクトレポート(専門職学位課程) 審査基準	博士論文審査基準
理学院	数学コース	修士論文研究においては以下の2つの要件を満たさなければならない 1. 学位審査論文において、従来の研究と比較して新たな観点・知見・解釈が何らかの形で含まれていること。 2. 申請者が研究内容の意義・結果について十分に理解していることを、修士論文及び論文発表会において的確に示せること。	博士論文研究では次の二つの要件を満たさなければならない。 1. 学位審査論文の内容に十分な独自性があり、該当研究分野の進歩に寄与するものと認められること。 2. 学位申請者が主たる著者となっている論文(参考論文)が1編以上あること(ここでいう論文とは、原則として、査読付き国際学術誌に掲載あるいは受理されたものを指す)。
	物理学コース	1. 研究内容について 当該分野の進展に寄与する研究であること 2. 学位論文について 関連分他の概観について適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確になされていること。	博士論文研究において、以下の学位審査基準を満たすこと。 1. 研究内容について 分野の進展に寄与する世界的水準の研究であること。 2. 学位論文について i) 関連分野の概観について広い読者を想定した適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確であること。 ii) 英語で書かれていること。 iii) 学位取得者が主要な貢献をした原著論文が国際的な査読付き学術誌で出版されているか、出版が確定していること* *ただし、出版の手続き上時間を要するものについては、1年以内に論文が出版される見込みであれば本条件として認められる場合がある。
	化学コース	修士学位論文は、化学の学術分野における新しい知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士論文研究において、以下の学位審査基準を満たすこと。 1. 学位審査論文の内容に十分な独自性があり、化学の学術分野の進歩に寄与するものと認められること。 2. 博士論文の内容をサーキュレーションのよい査読付き学術誌に少なくとも1報掲載すること。原則として学位申請者がその論文の筆頭著者であることを要する。
	地球惑星科学コース	本課程の学位審査にあつては、以下を基準とする。 ・ 学位審査論文において、研究テーマにかかわる従来の研究を系統的かつ過不足なくレビューできていること。 ・ 学位審査論文に、従来の研究と比較して新たな観点、知見が何らかの形(手法、基礎データ等)で含まれていること。 ・ 申請者が研究内容の意義、結果について十分に理解していることを、学位審査論文及び論文発表会において的確に示せること。	本課程の学位審査にあつては、以下を基準とする。 ・ 学位審査論文の内容に十分なオリジナリティーがあり、該当研究分野の進歩に寄与すると認められること。 ・ 学位申請者が主たる著者となっている論文(参考論文)が1編以上あること(ここでいう論文とは、原則として査読付き国際学術誌に掲載または受理されたものを指す)。 ・ 国際的な研究交流に支障のない語学力を有すること。

学院	コース等	修士論文 / プロジェクトレポート(専門職学位課程) 審査基準	博士論文審査基準
工学院	機械コース	修士学位論文は、機械工学の学術分野における新しい知見を含むか、または機械工学関連技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、機械工学関連分野における、新規性、独創性、及び十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	システム制御コース	修士学位論文は、システム制御学の学術分野における新しい知見を含むか、またはシステム制御技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、システム制御分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	電気電子コース	修士学位論文は、電気電子工学の学術分野における新しい知見を含むか、または電気電子技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。 なお、論文概要は英文で執筆することとする。	博士学位論文は、電気電子工学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。なお、博士の学位論文は、原則として英文で執筆することとする。
	情報通信コース	修士学位論文は、情報通信分野における学術的価値を持つ新しい知見、もしくは情報通信分野の発展に貢献する有用な知見を含む独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、情報通信分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	経営工学コース	修士学位論文は、経営工学・経済学の学術分野における新しい知見を含むか、または管理技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、経営工学・経済学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
物質理工学院	材料コース	修士学位論文は、材料科学および材料工学の学術分野における新しい知見を含むか、または材料技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。なお、論文概要は日本語若しくは英語で執筆することとする。	博士学位論文は、材料工学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。なお、課程博士の学位論文は、日本語若しくは英語で執筆することとするが、英文での執筆を推奨する。
	応用化学コース	修士学位論文は、応用化学の学術的、あるいは技術的発展に貢献する新しい知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、応用化学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文でなければならない。なお、課程博士の学位論文は、日本語もしくは英語で執筆することとする。
情報理工学院	数理・計算科学コース	修士学位論文は、数理科学／計算機科学分野における新しい知見を含むか、または同分野の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、数理科学／計算機科学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	情報工学コース	修士学位論文は、情報工学の学術分野における新しい知見を含むか、または情報工学技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、情報工学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文でなければならない。
生命理工学院	生命理工学コース	1) 生命理工学分野において新規性・独創性のある観点や知見を含み、独自の考察を記述した自著の論文であること。 2) 論文テーマに関わる従来の研究を系統的かつ過不足なくレビューできていること。 3) 研究内容の結果と意義を十分に理解していること。 4) 主要部分が生命理工学分野に関わる学会等で発表されたか、同等の水準をもつこと。	1) 生命理工学分野において新規性・独創性があり、学術的に十分な価値をもつ自著の論文であること。 2) その主要部分が、国際的な査読付き学術誌に学位申請者を主たる著者として掲載されているか、または掲載が決定されていること。 3) 学位申請者が国際的な研究の遂行に十分な語学能力を有すること。

学院	コース等	修士論文 / プロジェクトレポート(専門職学位課程) 審査基準	博士論文審査基準
環境・社会理工学院	建築学コース	修士学位論文は、建築学の学術分野における新しい知見を含むか、または建築技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、建築学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	土木工学コース	修士論文は、土木工学の学術分野における新しい知見を含むか、または土木技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。なお、論文概要は英文で執筆することとする。	博士学位論文は、土木工学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。なお、課程博士の学位論文は、英文で執筆することとする。
	地球環境共創コース	修士学位論文は、地球環境共創の学術分野における新しい知見を含むか、又は理学・工学技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、地球環境共創分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	社会・人間科学コース	<p>(内容) 新規性または独創性があり当該分野への新しい知見をもたらす内容を含むか、または研究の遂行に必要な基礎知識・理解力・問題設定能力、問題解決力等を証明する内容を含むこと。</p> <p>(論文) 修士論文は、研究の経過報告でなく、得られた成果を体系的にまとめられた自著のものであり、以下が含まれる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文概要</li> <li>・研究の背景</li> <li>・研究の目的</li> <li>・本論文の構成と本論文の概要</li> <li>・各章の内容</li> <li>・新たに得られた研究成果</li> <li>・結論と残された課題</li> <li>・本論文に関する発表【(任意)論文、学会発表等を行った場合は論文の構成と関係付けて記述する。コース内で行われる研究構想発表・研究中間発表を除く。】</li> <li>・参考文献</li> </ul> <p>なお、英文で書かれた論文概要を付すこととする。</p>	<p>(内容) ・新規性、独創性と、十分な理学的、工学的、あるいは、学術的価値を持ち、分野の進展に寄与する世界的水準の研究であること。 ・そのために、主要部分が学術論文誌等で公刊されているか、あるいは掲載が決定されていないか、あるいは掲載されていない。</p> <p>(論文) 博士論文は、以下について体系的に分かり易くまとめられていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の背景</li> <li>・研究の目的</li> <li>・本論文の構成と本論文の概要</li> <li>・各章の内容</li> <li>・新たに得られた研究成果</li> <li>・学問的・社会的な貢献</li> <li>・結論と残された課題</li> <li>・本論文に関する発表【論文、学会発表等について博士論文との関係性が分かるように記述する。】</li> <li>・参考文献</li> </ul>
	イノベーション科学コース	/	博士学位論文は、イノベーション科学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	技術経営専門職学位課程	/	/

学院	コース等	修士論文 / プロジェクトレポート(専門職学位課程) 審査基準	博士論文審査基準
複合系コース	エネルギーコース	修士学位論文は、エネルギーに関する学術的、あるいは技術的発展に貢献する新しい知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、エネルギー分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文でなければならない。なお、課程博士の学位論文は、日本語もしくは英語で執筆することとする。
	エンジニアリングデザインコース	修士学位論文は、エンジニアリングデザインの学術分野における新しい知見を含むか、または関連技術の発展や課題解決、未来の価値創造に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文等でなければならない。	博士学位論文は、エンジニアリングデザイン分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	ライフエンジニアリングコース	修士学位論文は、ライフエンジニアリングの学術分野における新しい知見を含むか、またはライフエンジニアリングの発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。なお、論文および論文概要は日本語もしくは英語で執筆することとする。	博士学位論文は、ライフエンジニアリング分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準にあること。なお、博士の学位論文は、日本語もしくは英語で執筆することとする。
	原子核工学コース	修士学位論文は、原子核工学の学術分野における新しい知見を含むか、または原子核工学技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。なお、論文概要は英文で執筆することとする。	博士学位論文は、原子核工学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。
	知能情報コース	修士学位論文は、知能情報学の学術分野における新しい知見を含むか、または知能情報技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、知能情報分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文でなければならない。
	都市・環境学コース	修士学位論文は、都市・環境学の学術分野における新しい知見を含むか、または同分野における技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。	博士学位論文は、都市・環境学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。

学位論文評価基準

研究科	専攻	修士論文	博士論文
大学院理工学研究科 (理学系)	数学専攻	修士論文研究では次の二つの要件を満たさなければならない。 1. 学位審査論文において、従来の研究と比較して新たな観点・知見・解釈が何らかの形で含まれていること。 2. 申請者が研究内容の意義・結果について十分に理解していることを、学位審査論文及び論文発表会において的確に示せること。	博士論文研究では次の二つの要件を満たさなければならない。 1. 学位審査論文の内容に十分なオリジナリティーがあり、該当研究分野の進歩に寄与するものと認められること。 2. 学位申請者が主たる著者となっている論文(参考論文)が1編以上あること(ここでいう論文とは、原則として、査読付き国際学術誌に掲載あるいは受理されたものを指す)。
	基礎物理学専攻	1. 研究内容について 当該分野の進展に寄与する研究であること。 2. 学位論文について 関連分野の概観について適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確になされていること。	1. 研究内容について i) 分野の進展に寄与する世界的水準の研究であること。 ii) 国際的な査読付学術誌に出版可能な研究であること。 2. 学位論文について i) 関連分野の概観について広い読者を想定した適切なレビューを行い、当該研究の位置づけが明確になされていること。 ii) 学位論文が明解な英語で書かれているか、英語で書いた論文が査読付学術誌に出版されていること。
	物性物理学専攻	1. 研究内容について 当該分野の進展に寄与する研究であること。 2. 学位論文について 関連分野の概観について適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確になされていること。	1. 研究内容について 分野の進展に寄与する世界的水準の研究であること。 2. 学位論文について 関連分野の概観について広い読者を想定した適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確で、オリジナリティーがあること。 3. 主要な貢献をした論文(注)の出版が確定していること。  ただし、第3項は、平成22年4月以降に博士後期課程へ進学または入学した学生に適用する。 物性物理学専攻は、博士論文を英語で執筆することを推奨する。平成26年4月以降に博士後期課程へ進学または入学した学生は、博士論文の英語での執筆を必須とする。
	化学専攻	修士学位論文は、化学における新しい知見を含む、自著の論文であって、それらが客観的に認められるものでなければならない。	博士学位論文は、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ、化学に関する自著の論文であって、それらが客観的かつ対外的に広く認められるものでなければならない。
	地球惑星科学専攻	1. 学位審査論文において、研究テーマにかかわる従来の研究を系統的、かつ過不足なくレビューできていること。 2. 学位審査論文に、従来の研究と比較して新たな観点、知見が何らかの形(手法、基礎データ等)で含まれていること。 3. 申請者が研究内容の意義、結果について十分に理解していることを、学位審査論文及び論文発表会において的確に示せること。 なお、博士課程進学希望者に対して、修士論文研究発表会とは別に面接を実施する。	1. 学位審査論文の内容に十分なオリジナリティーがあり、該当研究分野の進歩に寄与するものと認められること。 2. 学位申請者が主たる著者となっている論文(参考論文)が1編以上あること(ここでいう論文とは、原則として、査読付き国際学術誌に掲載あるいは受理されたものを指す)。 3. 国際的な研究交流に支障の無い語学力を有すること。
	物質科学専攻	・物質科学分野における自著の論文であること ・主文は新しい科学的事実を含んでいること ・主文に関連する適切な引用がなされていること ・学術研究が従うべき倫理・規範を遵守していること	・物質科学分野における自著の論文であること ・論理的かつ体系的に記述されていること ・主文は新規性、独創性と学術的価値を十分に持っていること ・関連する先行研究および著作物について十分かつ適切な引用がなされていること ・学術研究が従うべき倫理・規範を遵守していること

研究科	専攻	修士論文	博士論文
大学院理工学研究科 (工学系)	物質科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質科学分野における自著の論文であること</li> <li>・主文は新しい科学的事実を含んでいること</li> <li>・主文に関連する適切な引用がなされていること</li> <li>・学術研究が従うべき倫理・規範を遵守していること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質科学分野における自著の論文であること</li> <li>・論理的かつ体系的に記述されていること</li> <li>・主文は新規性、独創性と学術的価値を十分に持っていること</li> <li>・関連する先行研究および著作物について十分かつ適切な引用がなされていること</li> <li>・学術研究が従うべき倫理・規範を遵守していること</li> </ul>
	材料工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料科学・工学の分野において学術的価値を有する自著の論文であること。</li> <li>・当該研究の学術的背景や位置づけ、目的等が明示されていること。</li> <li>・実験方法あるいは理論などに新規性・独創性があること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料科学・工学の分野において十分な学術的価値を有する自著の論文であること。</li> <li>・当該研究の学術的背景や位置づけ、目的等が明示されていること。</li> <li>・実験方法あるいは理論などに新規性・独創性があること。</li> <li>・研究の主要部分が国際的な学術誌等に掲載価値があること。</li> </ul>
	有機・高分子物質専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該分野において、新しい知見をもたらす内容を含み、学術的価値を有すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該分野において、十分な新規性／独創性および学術的価値を有すること。</li> <li>・主要部分が国際的な学術雑誌に掲載される水準であること。</li> </ul>
	応用化学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用化学分野における自筆の論文であり、当該分野における学術的価値を有していること。</li> <li>・研究背景として、当該研究分野の関連する研究論文および著作物について十分な紹介と俯瞰的な潮流を述べていること。</li> <li>・研究の目的が新規性ならびに独自性を有する手法・結果によって達成されていること。</li> <li>・当該研究分野の研究が満たすべき倫理・規範を順守していること。</li> <li>・大学が定める審査実施方法で評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用化学分野における自筆の論文であり、当該領域における総合的かつ高い学術的価値を有していること。</li> <li>・研究背景として、当該研究分野の関連する研究論文および著作物について十分な紹介と俯瞰的な潮流を述べていること。</li> <li>・著者により当該研究分野において自覚的に設定された目的が、新規性ならびに独自性を有する手法・結果によって達成されていること。</li> <li>・当該研究分野の研究が満たすべき倫理・規範を順守していること。</li> <li>・大学が定める審査実施方法で評価を行う。</li> </ul>
	化学工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士学位論文は、新規性と独創性を有し、化学工学分野における新しい知見をもたらす内容を含む、独自の考察を含んだ自著の論文であること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士学位論文は新規性、独創性と十分な学術的価値を有し、化学工学分野において工学上・工業上貢献する、自著の論文であること。</li> <li>・主要部分が権威ある学術雑誌等に出版されているか、あるいは掲載される水準であること。</li> </ul>
	機械物理工学専攻 機械制御システム専攻 機械宇宙システム専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文は、新規性や独創性を有し、機械工学関連分野における学術的発展や新しい知見をもたらす内容を含む自著の論文でなければならない。以下の点を考慮して評価を行う。</li> <li>・論文の新規性が明示されていること</li> <li>・関連分野について適切な調査がなされ、当該研究の位置づけが明確であること</li> <li>・研究の方法が明確かつ具体的に記述されていること</li> <li>・論文に記述されている論理に一貫性があること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士論文は新規性、独自性を有し、学術的発展に貢献できる十分な価値を有する機械工学に関連した自著の論文であって、主要部分が国際的な学術誌等に掲載されるか、あるいは掲載される水準でなければならない。以下の点を考慮して評価を行う。</li> <li>・論文の該当分野における学術研究の発展に貢献できる新規性が明示されていること</li> <li>・関連分野について適切な調査がなされ、当該研究の位置づけが明確であること</li> <li>・研究の方法が明確かつ具体的に記述されていること</li> <li>・論文に記述されている論理に一貫性があること</li> </ul>
	電気電子工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規性もしくは独創性があり新しい知見をもたらす内容を含むか、または理工学分野での研究もしくは開発の遂行に必要な基礎知識・理解力・課題解決能力等を証明する内容であること。</li> <li>・論理性を具備した構成と明晰な文章で記述され、論旨が明快であること。</li> <li>・当該専門分野の研究上の蓄積を踏まえ、適切な研究方法と資料を用いていること。</li> <li>・学術研究が従うべき規範と研究倫理を守っていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の進展に寄与する世界的な水準の研究であること。</li> <li>・関連分野の概観について適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確で、新規性および独自性を有し、学術規範に則った論理性を具備した構成と記述になっていること。</li> <li>・主要な貢献をした論文が国際的な査読付学術誌へ出版されているか、もしくは掲載が確定していること。</li> <li>・学術研究が従うべき規範と研究倫理を守っていること。</li> </ul>
	電子物理工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規性もしくは独創性があり新しい知見をもたらす内容を含むか、または理工学分野での研究もしくは開発の遂行に必要な基礎知識・理解力・課題解決能力等を証明する内容であること。</li> <li>・論理性を具備した構成と明晰な文章で記述され、論旨が明快であること。</li> <li>・当該専門分野の研究上の蓄積を踏まえ、適切な研究方法と資料を用いていること。</li> <li>・学術研究が従うべき規範と研究倫理を守っていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の進展に寄与する世界的な水準の研究であること。</li> <li>・関連分野の概観について適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確で、新規性および独自性を有し、学術規範に則った論理性を具備した構成と記述になっていること。</li> <li>・主要な貢献をした論文が国際的な査読付学術誌へ出版されているか、もしくは掲載が確定していること。</li> <li>・学術研究が従うべき規範と研究倫理を守っていること。</li> </ul>

研究科	専攻	修士論文	博士論文
大学院理工学研究科 (工学系)	通信情報工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信情報工学分野の進展に寄与する独自の貢献または考察を含むこと。</li> <li>・当該研究分野における研究成果の位置付けおよび将来展望が明確に述べられていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信情報工学分野の進展に寄与する世界水準の独自の貢献と考察を含むこと。</li> <li>・当該研究分野における研究成果の位置付けおよび将来展望が明確に述べられていること。</li> <li>・専門論文誌に掲載可能な水準の内容を主要部分として含むこと。</li> </ul>
	土木工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査基準 修士学位論文は、土木工学の学術分野における新しい知見を含むか、または土木技術の発展に貢献する有用な知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。 なお、論文概要は英文で執筆することとする。</li> <li>・審査実施方法 審査委員会は3名以上の審査員で構成される。審査員による事前査読の後、口頭発表を行って最終的な審査・評価を行う。博士課程に進学する者の審査は5名の審査員で行う。 なお、口頭発表は英語で行うこととする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査基準 博士学位論文は、土木工学分野における、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ自著の論文であって、主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。 なお、課程博士の学位論文は、英文で執筆することとする。</li> <li>・審査実施方法 審査委員会は5名以上の審査員で構成されるものとし、他大学・他専攻の外部審査員を積極的に含めることを推奨する。中間審査および予備審査に合格した上で論文を提出し、口頭発表の後、審査員による事前査読を経て、最終的な審査・評価を行う。最終審査では、関連英語論文を読解させて、当該分野の理解能力を確認する。 なお、課程博士の口頭発表は英語で行うこととする。</li> </ul> <p>注) 社会人については、博士学位論文、口頭発表とも日本語を認める。</p>
	建築学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の研究または制作において、専門知識を身につけた上でそれに基づいた課題設定ならびに解決過程が論理的に説明、議論されていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築専門分野の研究において、高度な専門知識と国際的視野を持ち、課題設定から検討、解決に至るまでの過程が論理的な論文で展開されていること。主要部分が査読付学術誌において出版されているか、あるいは掲載される水準にあること。</li> </ul>
	国際開発工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査基準 修士学位論文は、国際開発工学あるいはそれに関連する学術分野における新しい知見を含み、独自の考察を含んだ自著の論文でなければならない。</li> <li>・審査実施方法 審査委員会は3名以上の審査員で構成される。中間審査に合格した上で論文を提出し、審査員による事前査読あるいは口頭諮問の後、口頭発表を行って最終的な審査・評価を行う。博士課程に進学する者の審査は5名の審査員で行う。 なお、論文概要執筆・口頭発表の両方を英語で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査基準 博士学位論文は、国際開発工学あるいはそれに関連する学術分野において、新規性、独創性と十分な学術的価値を有する自著の論文であり、その主要部分が国際的な水準にある学術雑誌等に掲載されているか、あるいは掲載される水準でなければならない。</li> <li>・審査実施方法 審査委員会は5名以上の審査員で構成されるものとする。中間審査に合格した上で指導教員に論文を提出し、公開の口頭発表(公聴会)を行う。その後、全審査員による査読・口頭諮問を行う。最終審査では、当該分野の理解能力(英語力含む)を確認する。</li> </ul>
	原子核工学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文は、執筆者の専門学力、知識に加え、課題解決能力と創造性を証明するものであること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士論文は十分な学術的価値を有するものであって、執筆者の課題発見・探求能力、新たな知見の創造能力、発信力及び先導力を証明するものであること。</li> <li>・博士論文の内容を含む原著論文が査読制度のある学術誌に第1著者として1報以上出版されていること。ただし「掲載受理」も可とする。</li> </ul>

研究科	専攻	修士論文	博士論文
大学院生命理工学研究科	分子生命科学専攻	<p>修士課程の学位審査にあつては、以下を基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位審査論文において、研究テーマにかかわる従来の研究を系統的かつ過不足なくレビューできていること。</li> <li>・学位審査論文に、従来の研究と比較して新たな観点、知見が何らかの形(手法、基礎データ等)で含まれていること。</li> <li>・申請者が研究内容の意義、結果について十分に理解していることを、学位審査論文及び論文発表会において的確に示せること。</li> </ul>	<p>博士課程の学位審査にあつては、以下を基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位審査論文は学位申請者が当該分野のこれまでの研究を踏まえてオリジナルに記述したものであり、該当研究分野の進歩に寄与するものと認められること。</li> <li>・学位論文を構成する内容の全部、または、一部が、学位申請者が主たる著者となっている論文として、査読付き国際学術誌に掲載されていること、又は掲載が確定していること。</li> <li>・国際的な研究交流に支障の無い語学力を有すること。</li> </ul>
	生体システム専攻	<p>修士論文は以下の内容を満たすことを要件とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学分野において、新規性、独創性のある内容を含み、独自の考察をもった自著の論文であること。</li> <li>・主要部分が、生命科学分野に関わる学会等で発表されたか、同等の水準をもつ論文であること。</li> </ul>	<p>博士論文は以下の内容を満たすことを要件とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学分野において、新規性、独創性に優れ、学術的に十分な価値を持つ自著の論文であること。</li> <li>・主要部分が、国際的な査読付き学術誌に学位申請者を筆頭著者として掲載、または掲載が決定されていること。</li> <li>・学位申請者が国際的な研究の遂行に十分な語学能力を有すること。</li> </ul>
	生命情報専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位審査論文において、研究テーマに関わるこれまでの研究を系統的に説明し、十分に研究内容について記述していること。</li> <li>・学位審査論文に、従来の研究にはない新たな観点や知見を記述していること。</li> <li>・学位申請者が研究内容の意義や結果について十分に理解していることを論文発表会にて的確に示せること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位審査論文は新規性や独創性があること、生命情報分野に新しい知見をもたらす内容を含む自著の論文であること。</li> <li>・学位申請者が第一著者の論文が、査読付国際学術誌に掲載されているか、掲載予定であること。</li> <li>・学位申請者が研究の遂行に十分な専門能力と語学能力を有すること。</li> <li>・学位申請者は研究倫理を身につけていること。</li> </ul>
	生物プロセス専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当研究分野の進展に寄与する研究であり、学位審査論文の内容に新たな観点・知見が含まれていること。</li> <li>・学位申請者が研究内容の意義・結果について十分に理解していること。</li> <li>・研究活動を行うために必要な語学力を有していること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当研究分野の進展に寄与する世界的水準の研究であり、学位審査論文の内容に十分なオリジナリティーがあること。</li> <li>・学位申請者が主たる著者となっている原著論文が1編以上あること(ここでいう原著論文とは、原則として査読付き学術誌に掲載したものを指す)。</li> <li>・国際的な研究活動を行うために十分な語学力を有していること。</li> </ul>
	生体分子機能工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位審査論文において、研究テーマにかかわる従来の研究を系統的かつ過不足なくレビューできていること。</li> <li>・学位審査論文に、従来の研究と比較して新たな観点、知見が何らかの形(手法、基礎データ等)で含まれていること。</li> <li>・申請者が研究内容の意義、結果について十分に理解していることを、学位審査論文及び論文発表会において的確に示せること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位審査論文の内容に十分なオリジナリティーがあり、該当研究分野の進歩に寄与するものと認められること。</li> <li>・課程博士の場合は、学位申請者が主たる著者となっている論文が1報以上あること。論文博士の場合は、学位申請者が主たる著者となっている論文が5報以上あること。ここでいう論文とは、査読付き学術誌に掲載したものを指す。</li> <li>・論文が英語で書かれていない場合、英語の最終試験を課すので、これに合格すること。</li> </ul>
大学院総合理工学研究科	全専攻	<p>本課程の学位審査にあつては、以下を基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学位審査論文において、研究テーマにかかわる従来の研究を系統的かつ過不足なくオリジナルにレビューできていること。</li> <li>○ 学位審査論文に、従来の研究と比較して新たな観点、知見が何らかの形(手法、基礎データ等)で含まれていること。</li> <li>○ 申請者が研究内容の意義、結果について十分に理解していることを、学位審査論文及び論文発表会において的確に示せること。</li> </ul>	<p>本課程の学位審査にあつては、以下を基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学位審査論文の内容に、該当する専門分野のこれまでの研究を踏まえた学位申請者の十分なオリジナリティーがあり、該当分野の学理究明と発展に貢献するものと認められること。</li> <li>○ 学位論文を構成する内容について、学位申請者が主たる著者となっている論文が各専攻で定めた件数以上あること(ここでいう論文とは、原則として査読付き国際学術誌に掲載したものを指す)。</li> <li>○ 国際的な研究交流に支障の無い語学力を有すること。</li> </ul>



研究科	専攻	修士論文	博士論文
大学院情報理工学研究科	数理・計算科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理科学または計算機科学における自著の論文であること</li> <li>・構成が適切であり、論旨が明快で、明晰な文章で書かれていること</li> <li>・新規性または独創性があり、数理科学または計算機科学における新しい知見をもたらす内容を含むこと</li> <li>・当該研究の遂行に必要な基礎知識・理解力・問題解決能力等を有すると判断できる内容であること</li> <li>・学術研究が従うべき規範が守られていること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理科学または計算機科学における自著の論文であること</li> <li>・構成が適切であり、論旨が明快で、明晰な文章で書かれていること</li> <li>・新規性、独創性および十分な学術的価値があり、数理科学または計算機科学における新しい知見をもたらす内容を含むこと</li> <li>・自立した研究者として、研究を継続遂行し、当該研究分野において、将来にわたり独自の貢献を行う能力を有すると判断できる内容であること</li> <li>・主要部分が国際的な学術雑誌等に出版されているか、あるいは掲載される水準であること</li> <li>・学術研究が従うべき規範が守られ、研究者としての研究倫理を身に付けていると判断できること</li> </ul>
	計算工学専攻	<p>修士学位論文は、執筆者が修士課程において取り組んだ研究に関して、その学術的な位置付けを理解し、研究内容を明快に記述した論文でなければならない。審査においては、以下の点を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野における研究の位置づけが明示されていること。</li> <li>・研究の方法が具体的に記述され、研究の結果に関して論理的な解析、考察が行われ、記述内容に信頼性があること。</li> <li>・研究の新規性もしくは有用性あるいはその両方について述べられていること。</li> <li>・論文が適切に構成され、分かりやすく記述されていること。</li> <li>・本学が定めるガイドラインに則り、研究活動の不正行為のない論文であること。</li> </ul>	<p>博士学位論文は、執筆者が主体的に取り組んだ研究に関するもので、その研究内容が国際的な新規性および独自性を有するとともに、学術的な有用性、信頼性を有することを示す完成された論文でなければならない。審査においては、以下の点を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野の既存研究に関して調査が十分行われ、研究の位置づけが明示されていること。</li> <li>・研究の方法が具体的に記述され、研究の結果に関して論理的な解析、考察が十分行われ、記述内容に高い信頼性があること。</li> <li>・研究の国際的な新規性および有用性の高さが示され、当該分野における貢献が明確であること。</li> <li>・研究成果に関し、論文として説得力のある一貫した展開がなされていること。</li> <li>・本学が定めるガイドラインに則り、研究活動の不正行為のない論文であること。</li> </ul>
	情報環境学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査基準</li> </ul> <p>修士論文の審査は、当該修士論文が学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有していること。</p> <p>学位申請者が研究の推進能力、研究成果の論理的説明力、研究分野に関連する幅広い専門的知識などを有しているかどうかを基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査実施方法</li> </ul> <p>審査委員会は3名以上の審査員で構成される。審査員による事前査読の後、口頭発表を行って最終的な審査・評価を行う。博士課程に進学する者の審査は5名の審査員で行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査基準</li> </ul> <p>博士論文の審査は、当該博士論文が学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有していること。</p> <p>学位申請者が研究の企画推進能力、研究成果の論理的説明力、研究分野に関連する幅広い専門的知識などを有しているかどうかを基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査実施方法</li> </ul> <p>審査委員会は5名以上の審査員で構成されるものとし、他大学・他専攻の外部審査員を含めることを推奨する。</p> <p>口頭発表の後、審査員による事前査読を経て、最終的な審査・評価を行う。</p>
大学院社会理工学研究科	全専攻	<p>★修士論文審査の方針</p> <p>○研究内容</p> <p>新規性または独創性があり当該分野への新しい知見をもたらす内容を含むか、または研究の遂行に必要な基礎知識・理解力・問題解決能力等を証明する内容を含むこと。</p> <p>○論文について</p> <p>修士論文は、研究の経過報告でなく、得られた成果を体系的にまとめられたものである必要がある。以下が含まれる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の背景</li> <li>・研究の目的</li> <li>・本論文の構成と本論文の概要</li> <li>・各章の内容</li> <li>・新たに得られた研究成果</li> <li>・結論と残された課題</li> <li>・本論文に関する発表【論文、学会発表等】</li> <li>・参考文献</li> </ul>	<p>★博士学位審査の方針</p> <p>○研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規性、独創性と、十分な理学的、工学的、あるいは、学術的価値を持ち、分野の進展に寄与する世界的水準の研究であること。</li> <li>・そのために、主要部分が学術論文誌等に出版されているか、あるいは掲載が決定されていなければならない。</li> </ul> <p>○学位論文について</p> <p>学位論文は、以下について体系的に分かり易くまとめられていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の背景</li> <li>・研究の目的</li> <li>・本論文の構成と本論文の概要</li> <li>・各章の内容</li> <li>・新たに得られた研究成果</li> <li>・学問的・社会的な貢献</li> <li>・結論と残された課題</li> <li>・本論文に関する発表【論文、学会発表等】</li> <li>・参考文献</li> </ul>

研究科	専攻	修士論文	博士論文
大学院イノベーション マネジメント研究科	技術経営専攻(専門職学位 修士課程)  (専門職学位修士課程のため 修士論文ではなく、プロ ジェクトレポートとしている)	<p>プロジェクトレポートは、現実の企業等の問題の発掘およびその解決の過程や成果をまとめた報告文書、あるいは学術的な研究成果をまとめた学術論文であり、次の要件を満たすものであること。            (参考: <a href="http://www.mot.titech.ac.jp/dept_mot/projectreport/">http://www.mot.titech.ac.jp/dept_mot/projectreport/</a>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発掘解決型のレポートは、               <ul style="list-style-type: none"> <li>－論理の展開が適切であること</li> <li>－産業、企業、社会への貢献が見られること</li> <li>－実務的な有効性が認められること</li> </ul> </li> <li>・学術研究型のレポートは、               <ul style="list-style-type: none"> <li>－論理の展開が適切であること</li> <li>－先行研究を十分にサーベイしていること</li> <li>－新しい結果あるいはオリジナルな主張があること</li> <li>－学術的な貢献が認められること</li> </ul> </li> </ul> <p>また、レポートの質を高めるために、最終発表会の約3ヶ月前に原則として全専任教員が参加する中間発表会を実施して上記の要件が満たせるように指導している。</p>	
	イノベーション専攻 (博士後期課程)		